

AMBITIOUS!

こだわり対談

vol. 2

好評
連載

(株)イー・キュー・ジャパン 取締役

松下信武氏

感情あつての人間社会。お互い気分が合わないとビジネスも付き合いもじっくりいかない。自分の感情をコントロールし、相手のこころも理解できれば対人関係はうまくゆく。EQジャパン取締役・松下信武氏に感情を効果的に管理し活用する方法を尋ねた。

行動を変え成果を生み出す 感情のコントロール・EQ

坂本●心の知能指数とも言われるEQ (Emotional Intelligence Quotient) が今、ビジネス界で注目されています。松下さんはこのEQの専門家です。松下さんはこのEQの専門家です。松下さんはこのEQの専門家です。松下さんはこのEQの専門家です。松下さんはこのEQの専門家です。

EQで人の能力や可能性を 正当に評価できる

松下●EQは他の人と調和的な関係

を生み出すために自分の感情を効果的に活用する知能で、社会的知能の一つと言われています。EQが高い人は自己実現力や対人関係能力が優れ、おのずとビジネスで成功する可能性が高いことから、コンピテンシー重視の人材戦略に最適視されています。

坂本●学校教育でも取り入れられるようになりましたが、なぜ企業や学

校、社会でEQが大切なのでしょうか。松下●私は現在、スポーツ選手のメンタルコーチも行なっていますが、一流と言われるクラスの選手になると技術面での差はほとんどなく、その中でトップになれるかどうかは心(感情)の調整にかかっていると考えています。常にポジティブな感情を保ち、勝利に結び付けるように感情をコントロールするのがEQの働きの一つです。EQは目的達成へのエネルギーを作り出し、良好なコミュニケーションを築く基盤ともなるのです。

坂本●技術が高くても、それを本番で発揮できるかはセルフコントロールにかかっているのですね。スポーツであれビジネスであれ、どんな状況におかれても大事なものは「生き抜いていく力」。私は「人間力」と言っていますが、これは学校や企業で短期間で身に付くものではないし、早い段階から徐々に磨いていくこと



松下 信武 (まつしたのぶたけ)

京都大学経済学部卒業後、民間企業人事課を経て、学習塾を開校。1988年より同大学教育学部で臨床心理学を学んだ後、EQジャパンのEQ開発教育プログラム作成プロジェクト参加。99年神奈川県自修館中等教育学校にて我が国初のEQ教育を実施。同年9月より現職。



坂本敦子

●人財育成コンサルタント

日本航空国際線客室乗務員、BASFジャパン人事部を経て、95年に人財育成コンサルタントとして独立、「プライム」を創業。2000年(有)プライム・タイムを設立。現在、数多くの企業や学生向けに「ライフ&キャリアデザイン」「リーダーシップ」「コミュニケーション&マナー」等の講演や研修で幅広く活躍中。☎03-3221-5530

松下●社員が絶不調に陥ると会社は「お前だめだ」と成果主義で評価してしまいますが、人間というのは再生した時に本当にその人の価値が出てくるもので、そこで切り捨ててしまっただけではいけない。限界に挑戦させ、どうにもこうにもならなくなったら「失敗したな、でも期待しているから、ベストをつくせ」と次の目標を与えることが必要です。もちろん失敗は失敗として、それなりのペナルティは与えてですよ。甘やかすのではありません。次のチャンスを与える前向きの姿勢が必要です。

坂本●そこで、人間失格か人生が終わりかのように思わせてしまったらだめなのですね。企業も、「個が企業を創っている」という原点をわかって、個にどうアプローチするかということで能力を引き出す人事制度であり、教育・研修でなければいけませんね。

松下●知識とか技能はすぐ古くなってしまいます。ところがヒューマンスキルとか人間力をもとにしたネットワークはそう簡単には崩れません。例えば会社が倒産したとしますね。社長以下全員路頭に迷うわけで

が大切だと思います。それで以前、松下さんが中学校で実施しているEQの授業を聴講させていただきました。

松下●2年生のクラスでしたね。

坂本●印象に残っているのは、みな目が輝き、表情が生き生きしていたことです。私は人が輝く瞬間というのはどういう時かなといつも注意深く観察しているのですが、あの時も生徒たちは松下さんの講義に大変興味を持って真剣に聞き入っていましたね。

松下●その「輝き」がキーワードです。話をしている時に顔が輝いていること。これがEQです。人を採用する時も、大事な基準は目の輝きです。ワクワクと目の輝いている人を採る。

坂本●そうですね。だから人を採用する時に効果的な質問として、「あなたは何をやっているときに、一番楽しいですか」と聞くのが原点かと思うのです。

松下●大事ですね。僕も学生を指導する際、「面接の時には、自分がこんな楽しいことをしたというのを強調しなさい」と言っています。それも他の人が経験していないようなことをですね。楽しいことを思い出すと、その時の感情が再現され、不随意筋が動いて自然に顔の筋肉が緩んできます。不随意筋は自分の意志では動かさないものですが、唯一動かせるのが感情です。リラックスした表情は相手にも好印象を与えます。感情をつくりだしたり、調整する能力がビジネスの場面でも大事になってくるわけです。

ワクワクと目の輝く人が採用のポイント

坂本●いま、時代のキーワードは「ワクワク」とか「きらめき」だと思います。輝いていることは重要で

すね。

松下●だから人を採用する時、最も大事な基準は「目の輝き」となるわけです。ワクワク感の強い人は自分の感情把握がうまく、他人の感情をとらえるのも上手。気配りもよい。対人関係をうまくリードしていきます。EQでそれがわかります。だから企業の人によく言うんです。「踊るような感じの人を採ってほしい」と。そういう人は気配りもよく、悲しみもよくわかる。

坂本●影絵の世界じゃないですが、光を放っている人は、いちいち影の話をしなくても暗い部分がわかっている。ワクワク感を持っている人は深いところで悲しみを乗り越えている。1回どん底に行き抜いているというパワーを感じますね。

松下●一流の人間は限界に挑戦しますから、明るいだけではなく必ず影の部分もできてきます。本当の悲しみとか苦しみを経験するからEQも高まります。だから学生によく言うんです。「自分の限界に挑戦しなさい」と。

坂本●人と比べるのではなく、自分の理想と比べる時代。悩みがあっても、それに立ち向かっていって「生き抜く」ことが大事なわけで、いまの学生やビジネスパーソンに、もっと壁を突き抜けるたくましが欲しい。国際社会になればなるほど、そうしたパワーが必要となりますからね。

会社概要

株式会社イー・キュー・ジャパン

所在地:東京都港区赤坂2-21-3

レドンドビル1F(本社)

電話:03-5574-8333

設立:1997年3月

事業内容:EQ診断・EQ育成研修プログラム

の研究開発、販売。

EQ理論を基盤とした組織・人事

コンサルティング業務

URL: <http://www.eqj.co.jp/>

すが、能力があって人間関係のしっかりした人には、どこからか声がかかり早く再就職に成功します。「彼はできるし、仲間にして一緒に仕事したい」と声がかかる人間関係が大事なわけです。

坂本●そういう人は「目が輝いている」。ビジョンや夢があって、相手の心に残っています。どんな高い地位の役職者でも会社を辞めればただの人であって、根底はその人の意志や人間的魅力。そのところがEQにかかわってくるわけですね。

松下●そうです。それともう一つは現代のビジネスはプロジェクト単位で動くのが多いという点。チームを組むにあたって選ばれるには「あいつは大丈夫だ」という評価が必要なのです。EQがその尺度になるのです。

EQは訓練で開発、伸ばすことができる

坂本●いまの企業社会には緩急がなく、何かしら追い詰められたような緊張感が張り付いています。学校でもそうで、勉強する時はとことんやる、遊ぶ時は思いっきりというようなカリキュラムの緩急が欠けています。だから子供たちが切れやすくなっている。

松下●EQの高い人は「楽しくない」



状態でも「楽しい」方向に持っていくとします。IPS (Ideal Performance State) という状態がありますが、これは一番仕事に集中している時で、何もかも自分でコントロールしている意識になって、結果は考えず思う通りに楽しくやっている。スポーツ選手はこの状態の時に一番いい記録を出します。

坂本●仕事でも勉強でも他人に目標を作られてがちがちにやっていると、良い結果は出ない。楽しい方向で自由にやっているから、期待された以上の価値が提供できることになるわけですね。

松下●プロというのは基本的にIPSを実現できる人です。EQの高い人

もIPSになりやすく、集中して仕事を楽しく創りだしていきます。

坂本●人生の主演は自分なんだと、「生きている」実感を味わうわけですね。きょうの話のまとめとして最後に、EQはどのようにして伸ばしたらよいのでしょうか。

松下●EQには感情の識別・利用・理解・調整という4要素がありますが、訓練によって開発することができます。まず感情の識別力を高めるには相手を観察すること。表情分析やムードを読み取る。感情の利用は、どうしたらいい人間関係を作れるかポジティブに考え、問題をぶち壊しにしないよう努力する。感情の理解は、感情が変化してどうなっていく

か推測する努力をしてください。感情の調整は、ポジティブな方向へ気分を切り替えた時に、それをできる限り維持する努力をしていくことです。
坂本●訓練次第で、EQはいくらでも伸ばすことができるのですね。ポジティブな感情を維持できるかが大切だというのは興味深いですね。それが結局、ビジネスの世界で生き抜いていく力になっていくのでしょうか。貴重なお話をありがとうございました。

久しぶりに、目がイキイキと輝き、つややかな表情の方にお会いました。お話ししていると何ともいえないあなたかさや安心感を感じる。関西弁のソフトな語り口の中にも言葉の一言ひと言に力強さがあり、人に対する熱い想いや気迫が伝わってくる。自然に私の中に力(やる気)が湧き上がってきた。EQとは周囲の人に「幸せの香水」をふりまく

ことができるものだ実感した。日本のTOPクラスのスポーツ選手のメンタルコーチもなさっている松下さん。「スポーツの世界の好きなど

ころは勝ち負けがはっきりしていることと、言い訳なしというところ」というお話が印象に残っている。スポーツでもビジネスでも、ぎりぎりの状態の中でポジティブな気持ちを持ち続けることができるかが勝負のポイントだ。これからは多くの分野で人の「輝き・パワー」を引き出していかれることだろう。

今回の対談を通して、健康的に競争社会に参加し、自分らしく生き抜いていくためには何が必要なのかをあらためて考えさせられた。

対談 後記